

●THUNDERBIRD® Probe One-step qRT-PCR Kitの使用条件 [ABI QuantStudio™ 6 Flex]

(1)反応液の調製

以下に 20 μL 反応時の調製例を示します。

試薬	20μL反応	最終濃度
滅菌水	X μL	
2 × Reaction Buffer	10μL	1 ×
DNA Polymerase	0.5μL	
RT Enzyme Mix	0.5μL	
Forward Primer	10 pmol	0.5 μM*1
Reverse Primer	10 pmol	0.5 μM*1
TaqMan® Probe	4 pmol	0.2 μM*2
50 × ROX Reference dye (Uracil-N-Glycosylase[UNG])	0.04μl 0.4unit*3	0.1 ×
RNA sample	YμL*4	
合計液量	20μL	

*1・2 検出感度が低い場合、TaqMan® probe濃度を0.2μMで固定し、プライマー濃度を、0.5~0.8μMを目安に上げてください。非特異反応が生じる場合、TaqMan® probe濃度を0.2μMで固定し、プライマー濃度を、0.2~0.5μMを目安に下げてください。

*3 UNG処理を実施する場合は、熱感受性(heat-labile)UNGを使用してください。
各社の推奨条件に従って、酵素量を調整することができます。

*4 過剰量の添加は反応効率低下の原因となり、十分な直線性が得られない場合があります。
Total RNAは反応液中に25ng/μl以下を目安に添加してください。

(2)RT-PCR条件設定

ステップ	温度	時間	昇降速度
(UNG反応)	(20~25° C*1)	(10分*1)	(最大)
逆転写反応	50° C	10分	最大
PCR初期変性	95° C	1分	最大
PCR 変性	95° C	15秒	最大
(40~45 cycles)*2 伸長	60° C	45秒	最大

(Data Collectionは伸長ステップに設定します)

*1 UNG処理を行う場合は、逆転写反応の前に、UNG反応のステップを設定してください。

上記の表に一般的な温度条件および反応時間を示しましたが、各社の推奨条件に従って調整してください。

*2 サイクル数は40サイクルで実施し、増幅が不十分な場合は45サイクルまで上げてください。